

第5回小郡市子ども・子育て会議 会議要約

日時	平成 26 年 7 月 29 日（火） 9：30～10：30
場所	市役所北別館 2 階 大会議室
出席者	<p><委員></p> <p>飯田委員、今吉委員、大石委員、組坂委員、島田委員、鈴木委員、立野委員、寺崎委員、西本委員、平井委員、吉塚委員</p> <p><事務局職員></p> <p>鮫島保健福祉部長、伊東子育て支援課長、野田子育て支援係長、成富子育て支援係員</p> <p>(株) ジャパンインターナショナル総合研究所 山部</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回 小郡市子ども・子育て会議次第 ・第6章 量の見込みと確保方策 ・小郡市新次世代育成支援行動計画（前期）及び子ども・子育て支援事業計画（第1期）骨子案について（質問・意見及び回答） ・シルバーママサービス利用者数推移（資料1） ・小郡市の就学前児童数及び保育所・幼稚園の入所者数（資料2） ・安全マップ（資料3）
会議内容	
1 開会	
2 議題	<p>(1) 「小郡市子ども・子育て支援事業計画」骨子案について</p> <p>①第3章 小郡市の子どもや子育てを取り巻く課題について</p> <p>事務局からの資料説明後、意見を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ネグレクトの問題やDVの問題、ひとり親家庭の子育ての状況等々を人権問題として訴え、その手法として教育や啓発、生涯学習という視点での計画づくりが必要と思うので、計画段階ではもう少しそういう社会情勢を押さえてほしい。 <p>→計画の中に反映していきたい。</p> <p>②第6章 量の見込みと確保方策について</p> <p>事務局からの資料説明及び事前質問に関する説明後、意見を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「病児・病後児保育事業」や「子育て短期支援事業（ショートステイ）」の預かる場所等は、ある程度決まっているのか。 <p>→病児・病後児保育については、現在、こぐま学園にお願いしているところで、ショートステイについては、太宰府市など広域で預かってある大刀洗の施設に相談し、受けていただく予定になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「10 乳児家庭全戸訪問」は、赤ちゃんが生まれて、どれくらいで訪問されるのか。

- 出生届が出た後、日程調整をして2～3か月以内に訪問する。4か月健康診断の際にも再度確認し、ほぼ100%確認できている。長期入院されている方などは電話で確認している。
- ・退院後1週間くらいで訪問するのが理想的なので、そうできれば一層いい。
 - 乳児家庭全戸訪問については、出生後2か月か3か月以内となっており、退院後1週間というのは赤ちゃんへのストレス等もあり難しい。
 - 出産後、1人で育てられている方は不安が多いと思うので、今、頂いたご意見は健康課に伝え、なるべく早く対応するように話したい。
- ・出産後、退院して1週間後と1か月後くらいに産婦人科に行く機会があり、その後、自宅での育児が始まるので、2か月くらいで訪問していただければ安心できる。
- ・「6 放課後児童健全育成事業」の数字は6年生まで含めた数字なのか。少ない気がするが、以前実施されたアンケートで希望があった数字か。
 - そうである。11月に行ったニーズ調査で未就学児と小学生家庭に学童についての希望を取った数字である。未就学のときは学童利用の希望者が多いが、小学校高学年になると塾等があり、希望されない人が多いので、こういう数字になるのかと思う。
- ・夏休みだけの預かりの希望が増えたりするが、その数字がこれに含まれていないのではないか。別枠でもいいので、夏休みなど、短期だけの数字等を書いたらどうか。
 - 自由意見の中で、現在、利用されていない方が長期休暇中の学童の預かりを希望されており、今後、学童のほうと話し合いながら考えていきたい。
- ・少子化によって全体的に学童利用者数の減少が始まっているか。
 - 地域で差がある。長期休暇中の受け入れについては、今後、考えていく必要があり、近隣の自治体で夏休み等も受け入れているところがあるので、そういうところを参考にしながら、学校側と協議し、検討していきたい。
- ・今の施設にこだわらずにできれば、それが一番いい。夏休み等は1.3倍くらいになるので、例えば、学校の施設を借りたり、体育館を常時開放していただくなど、今後はお願したいと思う。

3 その他

①資料1・2・3について

事務局からの資料説明後、意見を求める。

- ・シルバーママサービスの内容がファミリーサポートセンターに移行することも考えられるか。そうなった場合、料金の違いや利用しやすさはどうか。
 - シルバーママの会員は65歳以上だったが、ファミリーサポートセンターは幅広い世代で、地域の中で見ていきたいと考えている。料金については近隣を見ながら検討していくが、所得に応じた設定も考えている。
- 事務局から、事前に頂いていた意見の紹介と回答を説明。
- ・シルバーママサービスの料金補助はないのか。
 - シルバーママサービスについての補助はないが、今後、立ち上げるファミリーサポートセンターについては、世帯状況に応じた料金設定の検討もしていきたいと考えている。

・ファミリーサポートセンターについて、年度当初からの実施がスムーズに行われることが必要だと思うが、進捗状況はどうか。

→平成 27 年度開設に向けて事務局の方で内容について検討しているが、会員の研修等もあり、開設は年度途中になるかと思う。

②次回日程について

事務局より次回日程の説明

4 閉会のあいさつ